トーカイ徹底研究

なにげなく使っている1本のギター。時にはその原点にたちかえり、ギターづくりの本質に触れてみるのもミュージシャンとして、大切なことではないだろうか。1本のギターが如何に多くの要素を含んで制作されるか？トーカイファクトリーのプロダクトラインに、その興味深い真理と秘密がある。

①1本のギターができるまでの道のりは実に長い。記念すべき第1歩はこの自然乾燥から始まる。

●自然乾燥/世界各地より収集されたカーリーメイプル、アルダー、マホガニー、セン等の貴重なギター材はまた木製材が終るとギターづくりに最適な材料とするため、まず自然乾燥（天然乾燥）という長い旅にでる。木材中の"自由水"を含水率18%以下までおよそ極めて重要なプロセスである。流れる雲中の粗精（はいずみ）で約2～5年間ねらされギターに加工されるまでの間だ。●人工乾燥/長い長い自然乾燥の時間がさめた材料は強制な熱と蒸気で約1～2週間、人工乾燥にかけられる。木材中の組織については含水率とりのそくもめだ。担当スタッフは常に計器とにらめっこだ。特にトラキは危入りに行じかかる。だから、天然乾燥した材料でないと人工乾燥の狂いがでびど楽器材として不合格になってしまうから。また同一材料材のみでく乾燥ことも基本であると共に常識だ。●シーズニング/セイジニングだ。人工乾燥が終った木材料や木工加工途中の製品は休みなく安定されているシーズニングルームへ入る。常に気温20℃、湿度35%に保たれたこの部屋をトーカイ・カリフォルニアルームと呼ぶ。基準平衡含水率7～8%にされ、楽器として最適な材料に仕上げられる。

これがトーカイファクトリーのいわゆる正面入口。ここがうして、もうウエストコーストっていうフンイキ……。

さていよいよここから始まるギターセントラル。世界各地から送られてきた原材料たちの全貌をご覧だ。

メイプル、アルダー、マホガニー、セセ、たちはまず自然乾燥という長い旅にでる。ギターづくりの中で一番大事なパート。

シーズニング場のコントロールルーム。

基準平衡含水率7～8%の材料に仕上げる。

シーズニングルーム。まさにカリフォルニアルームといっていいほど快適。

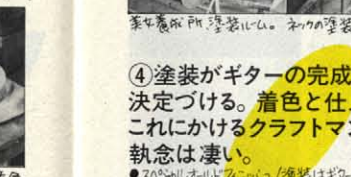
②多くのマテリアルの中から選ばれたものだけがギターとなりうる権利を与えられる。

●素材チェック&ボディネック材の構成/シーズニングされた素材は板号・木目・カナワイ・クサレ等、厳しいチェックを受けどんどんふりおとされてゆく。そして厳選されたものだけがギター材としての認められボディ材・ネック材として残される。ここで初めてLSのブックマッチングド"2ピースメイプルトップ。――ST・TE・PB・JB等の2ピースアルダーボディやマホガニー1ピースネック、メイプル1ピースネック等のボディ材構成およびネック構成etcが行なわれ、いよいよボディ加工、ネック加工へと工程は進んでゆく。

これがマホガニーのネック。　こちらはSSのネック群。

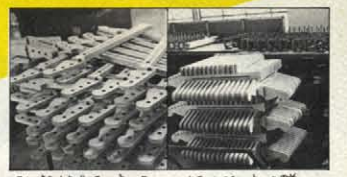
LSのP・マークの穴あけ加工。　若いがウデ前は超一流だ。

これぞクラフトマンシップ。　スーパーネックは彼らの手がら…。


ウルトラにも、ひってきするLSシリーズのネック精度。1/100mmの狂いもなくジャストフィット。

③「NCルーター」これが世界のギター創りの常識をかえた驚異のマシーン。コンピューター制御の「3次元ルーター」だ。

●驚異のボディカット/正確無比・圧倒的な精度を誇る3"NCルーター"このニューメリカルコントロール・ルーターによりLS、LCシリーズはもちろんST・SS・TE・PB・JB等すべてのシリーズが時を超えてあざやかによみがえってゆく。外周のカット、穴ぐり加工はもちろん、立体まどをもくもくな加工などまさに"3次元ルーター"の導入によりパフォーマンスの高いヴィンテイジモデルが続々と誕生、まさにハイクオリティモデルの発祥ともいえるところ。もちろんこのNCルーターでギターを製作したのも世界でトーカイがはじめてだ。こうしてできあがったボディに今度は経験ゆたかなクラフトマンの手が加えられよりパーフェクトで精度の高いギターとして仕上げられるネックのジョイントをまつ。●ネック加工&ジョイント/手作りされるネックはトーカイが日本で初めて採用したマホガニー1ピースネック。ヘッド角18°でヒール越すなしのこのネックは機械加工も非常にむずかしく、正確にトラスロッドがセットされた後、握り形状は1本1本繊細なクラフトマンのほどより、ノミ、彫刻カンナ、小刀、木エヤスリ、キサゲなど使いこまれた道具を駆使し仕上げられてゆく。ベストローズ指板がラミネイトされボディとパーフェクトジョイント。また一方のST・SS・TE・PB・JB等のメイプル1ピースネックを高度の技術が要求されるスーパーネックのひとつだ。特にトーカイではメイプル貼り指板まで含むメイプル1ピースネック、フラットローズ指板ラミネイトネック、ローズアール指板ラミネイトネックの4種類をパーフェクトに仕上げている。これだけトラディショナルモデルに忠実にしかも多くのバリエーションを考えているところも世界を含めて例がなく、トーカイの独壇場と言える。そして次にまたまた技術のみせどころ塗装工程へと入ってゆく。


PHOTOはSTモデルのフロント部をカエしているところ。

ニューメリカルコントローラーが正式名称だ。

そにかくなんでも創るスーパーマシーン。PHOTOはSTネック。

PUキャビティ、フロントボディシェイプ。まどのカエがおわったSTモデルのボディ群。

そして指板合わせ。ベテランクラフトマンのきびしい目が光る。

メタリックレッドのラッカーフィニッシュ。主を走るはLSがSTが。

クラフトマンの手足、工具たち…。着色をまつボディ郡。

バフリングでさらにみがきをかけるの。　ついに組立て工程突入！

美女養成所、塗装ルーム。　ネックの塗装、これはPBシリーズ。

私の彼は左きき???　この個性的なマナザシ。

④塗装がギターの完成度を半分決定づける。着色と仕上げ、これにかけるクラフトマンの執念は凄い。

●スペシャルオールドフィニッシュ/塗装はギターを保護する役目の他に楽器としての美しさを表現する本当の勝負どころのトーカイでは①ホワイトフィニッシュ②ラッカーフィニッシュ③カシューフィニッシュの3種類のお客さんに合うようにオールドカラーをもの事に再現している。特にラッカーフィニッシュ、カシューフィニッシュではお客さんの多様性のスペシャルフィニッシュでトラディショナルモデルを育てやすいほどの味わいと楽しさ、そして保護を誇っている。●オールドファイル選に言う魅惑的なLSシリーズのVFカラーはヴィンテイジモデル特有の経時変化によるサンバースト部分がレモンドロップしたり味わい深いカラーを極めたの色彩調合そしてフィニッシュによりみごとに再現。またST・TE・PB・JBシリーズ等ではネック、ボディ共に50年代から60年代に至る微妙なカラーリングの変化をも見事に再現。トラディショナルモデルを徹底的に分析・研究した成果がこんなにうれしくあらわれている証だ。トーカイの全シリーズに流れている他にマネのできない豊潤で特殊なオールドカラーフィニッシュ技術度よりさらにスペシャルカラー5色も追加して大きな魅力となっている。

最後のチェック。オクターブをあわせ、弦高などピアニにチェックなめてるまつき、そう彼はミスターベースマン。

キレイにみがかれたギター&ベースたちは白い花嫁衣装につつまれて、あなたのもとに旅立つのです。

配送センターにはワタクシにおまかせあれ。宅配トラックおじさん考上。

輩よ！あれがトーカイファクトリーだ。ここから世界に向けて楽器がとびたっていく……。

⑤ゴールが見えてきた。入念なフレット仕上げと組立て。パーフェクトであることが絶対条件！

●バフリング～組み立て～完成。さていよいよ塗装の終ったギターは水研ぎ、バフリング等を経てピカピカに仕上げられ最終工程である部品の取りつけ・組み立てへとうつっていく。もちろん厳しいチェックと細心の注意がはらわれ、工程は進みついに完成となる。管理に工程を説明してもよいほどおりびに、またまた細かい作業、工程がいくつもその中に盛りこまれている。たぶんこの5面を全部それにあてても書ききれないほどの仕事量のゆがう1本のギターが生まれていく。最後に、大事に、そして"その楽器を通じてミュージックマインドをたきくみがき、さらに素晴しいサウンドをクリエイトしてほしい。●ESシリーズ……。/ESシリーズはLS・LCシリーズとは全く別の製作ラインのゆがう生まれていく。高度な技術とクラフトマンの長いギターづくりのノウハウをもとに1本1本丹念につくられる。いわゆるハコギターと同じ構造だけにアーチトップ&バックそしてサイドとのボディコンストラクションの仕上がりが決め手となる。またこのハンドクラフトの中から生まれるESジャズ、ESロックモデルも色彩ゆたかなトーカイレッド(TR)、素材を生かしたナチュラル(N)そしてトラディショナルカラートーンを基本に再現したブラックサンバースト(SB)によるスペシャルオールドフィニッシュに身をつつみ、熱いミュージックシーンへの出番をまっている。

⑥さあ、どんなギタリスト、ミュージシャンたちと出会うのだろう。長く大事に愛されたいと心から思う。

●梱包・出荷/最終チェックをうけたギターはついにそれぞれ専用のカートンに厳重に梱包され出荷される。東京、大阪、中部、九州、北海道と全国5ヶ所に設けられた営業所を通じギターフリークのために楽しくネットワークされている。またエクスポートモデルはトーカイUSAを始めトーカイAG(オランダ)より全世界へ向けて輸送されるのだ。

トーカイは正式名称――「東海楽器製造株式会社」。実はエレクトリックギターばかりでなくピアノ、ライトピアノ、チェンバロ、バンジョー、クロマハープ、ピアニカ、ハーモニカ、そしてキャッツアイギターまで製作している総合楽器メーカーなんだ。

●「トーカイは総合楽器メーカー」なにっがらロックまで――」と言い言葉に楽器ならなんでも作ってやろうの集合体だ。日本で初めて製作したエレクトリックライトピアノをはじめグランドピアノ、アップライトピアノ、コンソールピアノのフルラインアップを構成、海外でも高い評価を得ている。またイムジネイ使用などでも知られるチェンバロはヒストリカルタイプからスピネットタイプまでプロダクツ。厳生ハンドメイドによるこのバロック音楽がなんだ学物は、繊細なタッチをさずえると共にタイムの秘的的なアルを獲得している。そしておわかりまなしみのネックツアイ。品質第一優先主義とマーティンとの技術提携がなんだアコースティックギターの傑作だ。また「ブルースター」とトーカイのブランドネームが世界中をかけめぐるバンジョー。クロスハープやハーモニカと知識は絶えない。教育楽器の一環として文部省より指定されている。「ピアニカ」「ハーモニカ」だってプロダクトしているのだから……。総合楽器メーカーだからこそ、品質を通じて多の製品も保証、安定した製造が続けられるという訳だ。

Quality before Quantity
東海楽器
東海楽器製造株式会社
本社 〒424静岡県清水市横砂東町2番地 TEL.(0543)41-3137
営業所 東京(03)295-2981 大阪(06)380-1118 中部(0534)53-6953
福岡(092)51-6262 札幌(011)822-1133